

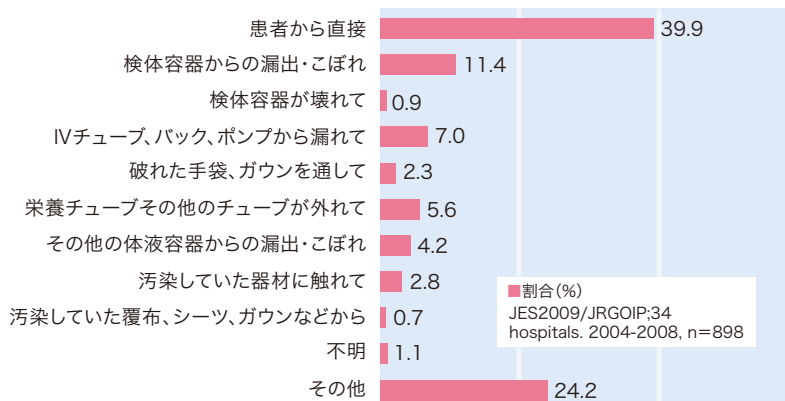
PPE (個人防護具)の **選び方** **使い方**

■院内感染予防策として、PPEの使用が重要!

曝露事例の統計によれば、患者から直接曝露するケースが全体の約4割にものぼっています。湿性生体物質による汚染から医療従事者や患者を守り、医療関連感染を未然に防ぐためにも、いまPPE (個人防護具)の適切な選択と使用が求められています。



曝露の発生経路 統計データ



【参考文献】
1) 職業感染防止のための安全対策カタログ集 第4版 職業感染制御研究会発行
2) 抗がん剤調整マニュアル じほう発行

■処置ごとに必要となるPPE (個人防護具)

○:必ず使用する △:状況により感染リスクが高まる場合に使用する

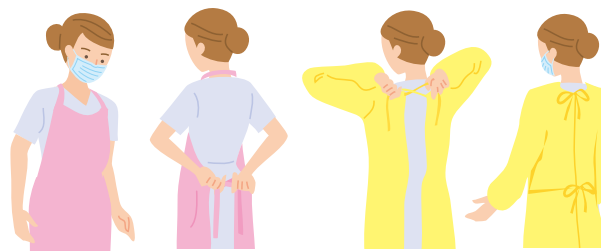
処置・ケア場面		手袋	マスク	手術用ガウン (滅菌)	アイソレーションガウン (未滅菌)	プラスチックガウン (袖ありエプロン)	エプロン	ゴーグル アイシールド付マスク
清潔ケア	口腔ケア	○	△				△	△
	陰部洗浄	○	△				○	△
	入浴	△					○※1	
排泄	排泄介助	○					○	
	オムツ交換 (通常)	○	△※2				○	△※2
	下痢患者のオムツ交換	○	○				○	△※2
	使用後の尿便器の処理	○	○		○	○	○	
清掃	環境整備	○	○				○	
	血液・体液で汚染された場所の清掃	○					○	
	リネン交換	△	○				△	
	汚染リネンの交換	○	○		○	○	○	△
注射	吐物の処理	○	○		○	○	○	△
	薬液準備	△	○					
	化学療法剤の準備	○	○	○	○			○※4
	中心静脈カテーテル留置	○※3	○	○				
	中心静脈カテーテル留置の介助	○	○					
	末梢からの中心静脈カテーテル留置 (PICC)	○※3	○	○				
	末梢からの中心静脈カテーテル留置の介助	○	○					
末梢静脈カテーテル留置	○							
検査	採血	○						
	血糖測定	○						
処置	気管切開部のケア	○	△				○	△
	気管内吸引 (開放型)	○	○				○	○
	気管内吸引 (閉鎖型)	○	○				○	△
	創処置	○	△				△	△
	創洗浄	○	○		△	△	○	△
	ろう孔・ドレーンのケア	○	○				○	△
	ストマのケア	○	○				○	

※1:この場合は、入浴介助用の防水エプロンでよい ※2:陰部洗浄を追加する場合 ※3:滅菌製品を使用する(マキシマルバリアプリコーションとして実施する) ※4:ゴーグルの着用が必須となります。 *施設により使用防護具は異なります。

■目的と機能に応じて正しい製品選択を

「ガウン」と「エプロン」の違い

一般的に「ガウン」は袖ありのもの、「エプロン」は袖なしのものを指します。汚染が胸部、腹部など体幹部に限定でき飛散リスクの少ない処置には「エプロン」を、汚染が広範囲におよぶ処置には「ガウン」を選ぶようにしましょう。



エプロン…袖なし

ガウン…袖あり



汚物や吐しゃ物などが広範囲に飛散する場合は「防水性」と「袖」があるものを！



守備範囲		
体幹	体幹・腕	体幹・腕・背中
エプロン (プラスチック)	プラスチックガウン	手術用ガウン (不織布+ラミネート)
—	アイソレーションガウン (不織布)	アイソレーションガウン (不織布)

「ビニル」「ニトリル」「ストレッチビニル」の違い

それぞれに素材が異なるだけでなく、操作性や強度、コスト面でも大きな違いがあります。



化学療法剤の準備時にはニトリル手袋のカフの短いものと長いものによる「ダブルグローブ」を！

	強度	操作性	テックスフリー	コスト面
ビニル	○	△	○	◎
ニトリル	◎	◎	○	△
ストレッチビニル*	○	○	○	○

*ストレッチビニルとは、ビニルよりも伸縮性と耐久性が高く、フィット感に優れた素材です。



海外最新情報

CDCよりエボラ対策PPEガイドライン発表

2014年10月20日、CDC(アメリカ疾病予防管理センター)とジョーンズホプキンス大学により、エボラ診療に携わる医療従事者に向けた防護具ガイドラインの動画教材が公開されました。これは感染制御のうえで重要となる「防護具の正しい着脱」の啓蒙を目的としており、動画はWEB教材、iTuneUでも公開中です。エボラ感染から身を守るためのガウン着脱テクニックや感染対策のノウハウが具体的に紹介されています。



動画

http://www.cdc.gov/vhf/ebola/hcp/ppe-training/PAPRespirator_Coveralls/donning_01.html



着衣前に器材は正しく動くか？ 防護服に破れなどの不備はないか？ など、必要となる確認事項の手順が詳細に解説されています。

監修：日本医科大学付属病院 医療安全管理部門・感染制御部 藤田昌久師長



メドライン・ジャパン合同会社

東京都文京区小石川1-4-1 住友不動産後楽園ビル15階
www.medline.co.jp

製品及びご注文に関するお問い合わせは、弊社担当営業もしくは下記までお願いいたします。

会社代表 / TEL:03-5842-8800 FAX:0120-37-5801